

みなと舎物語

（重症心身障害児者（メンバーさん）と愉快な仲間たち）

第36回

はまかせライターが研修会を取材!

社会福祉法人
みなと舎
☎046(855)3911



暮らしのよるこび、未来を描く

美しい支援を

求めて

200人が意見交換

重複障害のある方の生活を支える「社会福祉法人みなと舎」は、スタッフ200名が在籍し、通所施設・入所施設など16の事業を展開。メンバーさん（施設利用者）一人ひとりのより良い暮らしのため「人生支援」を実践している。

今年度は、さらなるサービス強化のため、少人数ごとの研修会を1年間かけて計14回実施し、スタッフ200名全員が参加した。全14回の研修会では、それぞれの参加者が「美しい支援を求めて」学ぶことには、真似ることについて意見交換を行った。みんな同じ空の下、社会に生きる人として、その人らしく素晴らしい命・生活・人生を送っていた。そのため美しい支援とは…。

研修会の進行役スタッフが参加者からうまく意見を引き出す様子が目撃された。「普段はあまり意見を言わないスタッフから、支援についての考えや思いが聞きました。」と担当者は話す。

「こんな支援をされたくない」のテーマでは、大きな声や荒い言葉遣い、清潔感がないなどの回答が多かった。それぞれが相手の立場にたった丁寧な支援を心

掛けているようだ。「メンバーさん中心に考えているか」についても様々な意見が聞かれた。どんな支援が正しいのか、悩むスタッフもいる。体験談やメンバーさんへの思いなどスタッフ2000通りの話はみな、メンバーさんを第一に考えたものだった。メンバーさんの人生が豊かになるには、メンバーさんのことをいかに真剣に考えられるか。メンバーさんが何を望んでいるか、どう感じているかを考え、汲み取ることが「美しい支援」につながる。言葉で理解するのと、実際に支援を経験して相手の感情に添えてきた今とでは、まるで意味合いが違う。

みなと舎では様々な職種のスタッフ、医師・看護師・支援スタッフ・事務・薬剤師・理学療法士・管理栄養士・保育士・運転手などが在籍している。研修会では、年代・職種間を越えた意見交換・情報共有が実践された。研修会を終えて担当者には「悩みながらも自ら答えを見つけて解決する力があるスタッフが多かったです。スタッフ間で情報共有できる機会を多く持つことで、メンバーさんの個性がより活かせる法人になると感じています。」と先を見据えていた。